

# 教育最前線

連載 15

●立命館アジア太平洋大学・二輪車安全教室

## 二輪車で通学する大学生に、安全運転のスキルと知識を指導

### 「二輪車安全教室」の内容

#### 1 実技

##### 1) 乗車前の基本確認

実技ではまず、「車両点検の方法」「正しい乗車姿勢」「ヘルメットの正しい着用方法」などの基本事項を確認。さらに「乗降時のポイント」を確認し、実走行へ。

車両点検は、「ぶたと燃料」で覚え、以下の項目を走行前に最低限チェックする。



- ぶ…ブレーキのききが十分であるか
- た…タイヤの空気圧が適正で、亀裂などがないか
- と…灯火類（ライト、ウインカー）が切れていないか
- 燃料…ガソリンが入っているか

##### 2) 走行トレーニング

走行トレーニングは、「ブレーキング」「スラローム」などの基本走行からスタート。インストラクターは安全に発進停止しているか、乗車姿勢、安全確認の有無などをチェックし、個別に指導。「一本橋」「ブロックスネーク（障害物折返狭路走行）」「千鳥バランス」など、やや難易度の高いメニューでは、「体をふらずに重心移動で曲がって」「視線はもっと遠くへ」「膝を締めて」などと、一人ずつ細かくアドバイス。



#### 2 座学

##### 1) 多発事故の特徴

座学ではまず、「二輪車の各部分名称」「日常点検」「保険の基礎知識」など、二輪車利用に必要な基本知識を確認。さらに「二輪車事故の実態」について、全国的な多発事故の特徴を解説。

バイク事故を防ぐために、「クルマの陰にクルマが来ているかもと意識する」「自分が死角に入っているかもと意識する」「危険箇所では視線を積極的に動かし、幅広く情報を収集する」「クルマや歩行者はこないだろうといった『だろう運転』はやめ、防衛運転を心がける」とアドバイス。



##### 2) 山間部走行の注意点

全国的な特徴だけでなく、通学路を撮影した写真を使って通学路にひそむ具体的な危険を指摘。

「砂利・路面凹凸地点」では、ハンドルをとられ転倒の危険あり。スピードを控えめに、アクセル操作を慎重にする。「道幅減少地点」では、対向車と衝突する危険あり。スピードを控えめに、危険予測を実施。「マンホール」では、スリップ転倒の危険あり。マンホール上でのハンドル操作、急ブレーキに注意。



世界97か国から学生が集い、日本でも有数の国際大学として知られる立命館アジア太平洋大学（大分県別府市）。同大学のキャンパスは、市街から5kmほど離れた山間部に位置する。

そのため、現在、500名近くの学生が二輪車通学を申請している。そうした中で、月に4〜5件のペースで軽微な事故が発生しており、その対策が近年の課題となっていた。こうした状況を受け、同じ九州内に活動拠点を置く本田技研工業（株）安全運転普及本部熊本普及ブロックが協力し、同大学として初めて、実技重視の実践的な二輪車安全教室を開催した。



走行前に、正しい乗車姿勢を確認した

ポイント①  
個々の技術レベルに応じて、きめ細かく実技指導  
実技指導ではまず、「乗車姿勢」「車両点検」といった基本事項を確認。続いて、「ブレーキング」「スラローム」などの基本走行、さらに「ブロックスネーク」「千鳥バランス」など、徐々に難易度の高いトレーニングへと進む。



ライディングトレーナー体験で、危険予測の重要性を学んだ

トレーニングの難易度が上がるにつれて、メニューをうまく消化できない参加者も見受けられたが、インストラクターが一人ひとりの癖を確認しながら、個々のレベルに応じたアドバイスを行い、何度も繰り返し返すうちに、参加者は徐々に上達していった。

#### ポイント②

##### 通学路の実態に合わせた、具体的なアドバイスを提供

実技に先立って行われた座学では、最近の二輪車事故の実態、安全運転の基本知識を解説。さらに必要となる保険知識なども解説し、二輪車利用に関わる社会的責任を促す指導が行われた。また、「道路のセンターライン付近には砂利が溜まりやすいため、キープレフトを心がける」「山間部では濃霧が発生しやすいので、スピードを落とし常に余裕をもった運転を心がける」など、山間部に位置する同大学な

#### ポイント③

##### ライディングトレーナーで、さまざまな「危険予測」を体験

当日、会場の一角にはホンダライディングトレーナーが設置され、安全教室に参加しない学生も二輪車の危険予測をライディングトレーナーで体験した。学生からは、「自分がいかに、安全確認を怠っていたかがわかった」といった声がかげられ、事故が起こりやすい場所を確認し、日頃から注意して走行することを改めて納得した様子だった。

##### いきいきとした表情に手応え

同大学チューデントサポーター・センターの西村啓一さんは、「今回、いちばん印象に残ったのは、学生たちが

らではの注意点を確認した。「大学生に必要な交通安全の基本的な知識の指導はもろんですが、大学周辺を事前に調べ、事故防止に向けた具体的なアドバイスをしました。事故を防ぐために、受講者の実態に合わせた指導を心がけています」と笠インストラクター。

いきいきと安全教室を受けていたことだ」と語る。

「ホンダのプログラムは、学生たちのやる気をうまく引き出しながら、交通事故防止のポイントを楽しく学べるように工夫されています。こうした実践教育が重要であり、効果的だということを再認識しました。できれば今後継続的に実施していきたいと思えます」と西村さん。

安全教室終了後の学生たちからも、「自分の未熟さがよくわかった。もう一回体験したい」「面白かった。これなら何度でも受けたい」といった声が聞かれ、手応えのある安全教室となった。



### 読者の声

ご愛読者のみなさまへ  
SJに対するご意見・ご感想をお寄せください！  
SJ編集部では今後の紙面づくりの参考にさせていただきます。みなさまのご意見・ご感想・ご要望を下記メールアドレスにてお待ちしております。  
sj-mail@spirit.honda.co.jp

#### ●市立西宮高等学校（兵庫県） 大西和雄さん

本校は、自転車通学の生徒が多く、特に自転車事故の防止に力を入れて交通安全指導に取り組んでいます。全校集会、学年集会、学級指導、通学時の立ち番など、機会あるごとに、二人乗り、無灯火、携帯電話・携帯音楽プレーヤーの使用の危険性を伝えるなど、自転車の安全な走行を呼びかけています。他にも年一回の安全点検や、1年生を対象に警察の方を招いての安全講習会を実施しています。本校は雨天時の河童着用を義務づけており、定着率は100%を誇ります。

SJ紙では、特に自転車関連の記事に注目して、生徒指導に活かせる記事はないかと毎号拝見しています。これからも、生徒指導に役立つ記事を期待しています。